

複式学級新聞

複式学級の実態

複式学級は、いつから始まったのと、疑問に思った。そこで、僕は、複式学級について調べてみる事にした。



授業参観の様子

平成四年。油久小学校では、三年四年、五年六年生が、複式学級になった。予期されていたこととはいえ、校区民のシヨクは大きかった。そして、平成九年にPTA役員が中心になって動いたのが「留学制度」だった。その後平成十一年から「留学制度」を開始した。平成十一年は五人、十二年は四人、十三年は五人、十四年は六人、十五年は七人、十六年は四人だったが、いろいろな事情のもとに六年間で計三十一人で「留学制度」は終了した。複式学級では、平成四年、五年、十八年、二十一年、



全校児童の写真

油久小学校の全校児童の数が一番多い年は、昭和三十六年の、二百六十八人で、大正時代から昭和三十六年まで増えていき、それから徐々に減っていった。開校百周年の年の人数は百八十人で、開校百四十周年の年の人数は三十六人だ。昭和五十二年までが、百十一人で昭和五十三年は、九十人で、それからは八十四人、六十九人、六十人と、減っていき、今の人数は二十三人に、とても減っている。だから、人数が減ってきて学年が複式学級なのだ。

全校児童の数の変化

二十三年は三・四、五・六年生が複式学級だったが、平成十一年と十二年、十九年、二十二年は三・四年生だけで、十三年と十七年、二十年は、五・六年生だけが複式学級と、複式学級になる学年は別々だった。だが、今は全学年が、複式学級だ。

令和二年
一月二十九日
浦辺洸太

昭和三十年から四十年頃の様子

昭和三十年から四十年ぐらいは、全校児童は二百人以上いたが、昭和三十年代後半からの集団就職で「過疎化」が始まった。三十九年東京オリピックで文明国入りをするが、文化生活はお金がかかるとして「少子」になった。しかし、学級の定員変更もあり、昭和四十年度の三年生は四十九名でふた学級になった。臨時教室として図書室を使ったが一年間のみだった。

感想

ぼくは、これまでの油久小学校の全校児童の人数の移り変わりや、複式学級の始まりや実態を調べて、昔は人数が多いのに今ではとても減っていて驚いた。これからもいろいろなものの、昔について調べてみたい。